

「ゆるく」国立劇場の夏 第34回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演



8月26日(土)・27日(日)、今年度の全国高等学校総合文化祭にて優秀な成績をおさめた「日本音楽部門」「郷土芸能部門」「演劇部門」から、部門の推薦校を含む12校により東京公演が国立劇場にて開催されました。私は初めての参加。国立劇場は今後立て直しのため、34年続いたこの東京公演の国立劇場での開催は今回が最後となります。長野県の高文連は組織されて30年あまり。他県も含め文化芸術発展のためにこのようにすそ野を広げながら高校生たちの文化活動を支えてきた連盟の力により、高校生が豊かな感受性を携えそれを「表現する」という芸術活動発表を、これだけの大舞台で堂々と披露する姿に、最後となった国立劇場の歴史と本連盟の果たしてきた役割を重ね合わせ感無量の時間を味わいました。冒頭の都倉俊一文化庁長官の挨拶は、コロナ禍の始まりの長官の叫びに近いことばを思い出すものでした。「文化芸術活動に不要不急はありません！」文化活動が悪者扱いされた当時、私たちの気持ちを代弁してくださったあの時から変わることなく高校生を応援していただいていることに感謝しかありません。そして発表した各校のレベルの高さにびっくり！特に長野県ではあまりなじみのない「郷土芸能」は、それぞれの地域に伝わる芸能を、土地で暮らしてきた人々の風景や歴史背景、伝承されてきた風習などを見事に表現されました。後継者不足も話題になる地域の伝承担い手問題。このように学校の部活動として取り組む生徒たちには「自分たちが繋いでいく」という責任感が演舞から表現され、こみ上げるものがありました。ここ松本にある蟻ヶ崎高校が「ゆるく」未来を模索したいと感じる時間でした(公演の様子は後日オンライン配信もあるようです)

← プログラムより(当日の一部)

◆郷土芸能「鬼剣舞」

岩手県立北上翔南高等学校

◆郷土芸能「神楽太鼓組曲【祈り】」

愛知県立松陰高等学校

